

水戸天狗党と追討軍の配置図



年未詳「(水戸浪士、福井大蔵大輔他配陣図)」

松田三左衛門家文書(当館蔵) [デジタルアーカイブへ](#)

解説

江戸時代後半の水戸藩では、徳川斉昭の時代から水戸藩内の党争が激化し、尊王攘夷派は天狗党と称して保守派の諸生党と対立していました。

1863(文久3)年八月十八日の政変で尊王攘夷運動が挫折すると、翌1864年(元治1)、天狗党の首領藤田小四郎(藤田東湖の子)らは筑波山に挙兵、一時勢力を得ましたが、幕府の追討軍に敗北しました。

福井とのかかわり

筑波山での挙兵に失敗した天狗党は、武田耕雲斎を首領とし、中山道から美濃路を西へ進みます。しかし途中で井伊大老を討たれた彦根藩などが立ちはだかり、天狗党は戦鬪を避けるために進路を北へとります。一行約1,000名は深い雪のなか蠅帽子峠をこえ越前大野郡(現大野市)に入り、ついで南条郡今庄(現南越前町)から木ノ芽峠をこえて、12月11日に敦賀郡(現敦賀市)へ入りました。しかしそこで待ち構えていたのは、加賀藩・福井藩・勝山藩など追討軍の大軍勢で、総大将は一橋慶喜でした。

耕雲斎は慶喜に嘆願書を送るものの、受け取りを拒否されてしまいます。耕雲斎は主君に弓を引けないとして、降伏を決断しました。天狗党は敦賀の寺に収容され、加賀藩からは食事など丁寧な扱いを受けましたが、幕府側に引き渡されると一転、罪人扱いとなりました。北前船で運ばれてくる肥料のニシンを入れる「鮭倉」に幽閉され、耕雲斎ら353人が5回に分けて斬首されました。

敦賀の人々は浪士たちを気の毒に思い、明治になると墓碑の近くに松原神社が造営され、戦死者や病死者も合わせた411人が神として祭られました。

資料の注目ポイント

資料は天狗党と追討軍の配置を描いたものと考えられます。

松田三左衛門家は越前海岸東北部、越前岬と東尋坊のほぼ中間にあった南菅生浦(現福井市)の庄屋で、地理的には天狗党の行路から離れていましたが、福井藩が幕府の命令で動員されたこともあり、情報を収集しながら動静を注視していたようです。

図の中央部より少し上、道が山なりになっているところが「木ノ芽峠」、その付近に天狗党一行が滞在していたと思われる「賊屯集所」(点線囲み部分)とあります。

図の右下を観察すると「福井大蔵大輔様」とあり、これは松平慶永(春嶽)を指しています。また、図の右上に「一橋本陣」とあり、一橋(徳川)慶喜はここに陣を構えていたようです。

関連資料、展示等

名称	概要	備考
「(水戸浪士、福井大蔵大輔他配陣図)」	松田三左衛門家文書 (当館蔵) 資料番号 A0169-03415	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-327720-1-p1
福井県文書館企画展示 「一蜂起 150 年－水戸天狗党 敦賀に散る」	「(水戸浪士、福井大蔵大輔他配陣図)」を 展示	当館 WEB で公開中。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/2014exhb/2014exhb00.html

参考文献等

- 『近代天皇制の文化史的研究』(高木博志 1997年 校倉書房)
 『全国版 幕末維新人物事典』(歴史群像編集部 2010年 学研出版)
 『高杉晋作』(梅溪昇 2002年 吉川弘文館)
 『徳川慶喜公伝 2』(渋沢栄一 1989年 平凡社)
 『福井県史 通史編4 近世2』(1996年 福井県)
 『幕末の天皇・明治の天皇』(佐々木克 2005年 講談社)
 『松平容保の生涯』(小桧山六郎 2003年 新人物往来社)

- 京藤甚五郎家 https://www.fuku-e.com/010_spot/index.php?id=246 (2018年7月14日閲覧)
 武田耕雲斎等の墓 <http://www.turuga.org/places/takeda/takeda.html> (2018年7月14日閲覧)
 文化遺産オンライン <http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/231791> (2018年7月14日閲覧)
 霊山歴史館 http://www.ryozen-museum.or.jp/docs/ABOUT-04_ippin_11.html (2018年7月14日閲覧)